

社会・文化論専攻

1. 専修科目、授業科目、単位数、担当者及び主研究内容等

※ 担当者氏名前の○印は、令和6年度の学生募集担当者を表します。

種目	分野	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等	
選 択 必 修 科 目	人間 社会	社会システム論演習Ⅰ	8	教授 ○平田 暢	(1)産業化の原理が一貫して地域社会に具体的形態を与えてきたという認識枠組みに基づく、地域移動の効果やコミュニティ形成に関する実証的研究と、(2)個人の相互依存状況における協働と分配の問題や、不確実状況下における意思決定のメカニズムに関する数理社会学的研究、ならびに、上記2つの研究を踏まえた、(3)地方自治体に対する信頼の研究	
		社会システム論特講Ⅰ	4			
		社会システム論演習Ⅱ	8			
		社会システム論特講Ⅱ	4			
	【担当者未定科目】					
	人 間 文 化	文化構造論演習Ⅰ	文化構造論演習Ⅰ	8	教授 ○高岡 弘幸	文化人類学・民俗学。主な研究地域は日本(北海道、富山、高知、九州北部など)およびベトナム。これまで、芸能、民間信仰、都市伝説、家族、消費生活(コンビニエンスストア)などの側面から、日本やベトナムの都市文化を考察してきたが、近年は、特に怪異や妖怪・幽霊伝承を材料として、地域文化の変容や都市化について研究を行なっている。
			文化構造論特講Ⅰ	4		
		文化構造論演習Ⅱ	文化構造論演習Ⅱ	8	教授 博士(文学) ○中村 亮	文化人類学・地域研究。アフリカ(タンザニア、スーダン、ケニア)と日本(福井県、千葉県)の沿岸部を調査地とし、歴史自然環境および生産活動に着目して漁民文化を研究している。近年では、漁民社会の資源管理(環境保全)、文化遺産と観光開発、持続可能な地域振興などについて、比較文化の視点より調査研究している。
			文化構造論特講Ⅱ	4		
		文化構造論演習Ⅲ	文化構造論演習Ⅲ	8	教授 ○宮岡真央子	文化人類学・民俗学。主な研究地域は、台湾、南西諸島、北部九州など。とりわけ近年は、台湾の先住民村落での調査をふまえ、台湾におけるエスニシティ、先住民の植民地経験と文化・歴史認識の再構築との関係、文化の資源化の動きなどについて研究し、それらと日本の人類学史との関わりについても考察をおこなっている。
			文化構造論特講Ⅲ	4		
		思想文化論演習Ⅰ	思想文化論演習Ⅰ	8	教授 ○関口 浩喜	現代の英語圏における哲学を研究分野としています。とりわけ、ワイトゲンシュタインの哲学を研究対象の中心に据えています。それと同時に、ワイトゲンシュタインの関心の幅に応じて、私自身も、たんに哲学にだけではなく、文化人類学や心理学、社会学等に対して哲学的な考察がどのようなかたちで貢献できるのか、という問題にも関心を持っています。
			思想文化論特講Ⅰ	4		
		思想文化論演習Ⅱ	思想文化論演習Ⅱ	8	教授 博士(文学) ○岸根 敏幸	神話と宗教を基軸とする思想文化上の諸問題について研究しています。これまでに扱ってきたものは、大乘仏教において展開された中観思想、新たな宗教理解を目指そうとする宗教多元主義、清沢満之や西田幾多郎の宗教哲学、八幡信仰や御霊信仰に代表される古代日本の宗教信仰など、多岐にわたりますが、近年では特に日本神話の研究に取り組んでいます。
			思想文化論特講Ⅱ	4		
		【担当者未定科目】				
		表象文化論演習Ⅰ	表象文化論演習Ⅰ	8	教授 博士(文学) ○植野 健造	美学、美術史学、芸術学、博物館学など。特に主要な専門領域は、日本近代美術史。作家、作品、資料の発掘と分析を通して、日本近代美術史の再検討を試みる。
			表象文化論特講Ⅰ	4		
		表象文化論演習Ⅱ	表象文化論演習Ⅱ	8	教授 浦上 雅司	美学、美術史学、芸術学、博物館学など。特に主要な専門領域は、日本近代美術史。作家、作品、資料の発掘と分析を通して、日本近代美術史の再検討を試みる。この他広くヴィジュアルイメージに関わる人間活動の歴史と意義について留意し、考察を行う。
			表象文化論特講Ⅱ	4		
表象文化論演習Ⅲ		表象文化論演習Ⅲ	8	准教授 博士(Ph.D.) ○落合 桃子	西洋絵画は「肖像画」「風景画」「風俗画」「歴史画」など主題によって分類されるが、それぞれの主題がどのように扱われるか、どの主題が重視されるかは時代と共にさまざまに変化してきた。本演習では、こうした観点から、各主題の歴史的な変遷の概略を確認し、その上で、特に重要な業績を残した美術家を選んで演習参加者が調査し、当該画家の歴史の意義を探求する。この作業によって、西洋美術史の大きな流れを理解し、同時に視覚芸術作品を調査・研究するに必要な作業の実践を学ぶことを目指す。	
	表象文化論特講Ⅲ	4				
【担当者未定科目】						
【担当者未定科目】						

種目	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
必修科目	社会・文化基礎論Ⅰ	2	准教授 博士(文学) 林 晋雄	社会および文化と密接に係る要素の一つである、「(倫理・道徳的) 価値」について考察する。とりわけ、「価値」の捉え方の相対主義と客観主義との対立について学び、議論する。
	社会・文化基礎論Ⅱ	2	准教授 博士(文学) 小笠原史樹	社会や文化に関する基礎的な研究として、キリスト教、イスラーム、仏教の聖典・古典の内容を比較し、思想的・哲学的に検討する。
	社会・文化基礎論Ⅲ	2	教授 ○平田 暢	自分の問題意識を理論や仮説の形に整理し、検証する方法を中心とした、社会学的な研究方法の習得を目指す。
	社会・文化基礎論Ⅳ	2	教授 ○宮岡真央子	文化研究の方法のなかでも質的研究 (qualitative research) と包括される諸調査研究方法について、実際の調査方法とその意義や理論、資料の整理法や論文での用い方などについて学ぶ。質的研究に関する入門書をテキストとして講読するが、あわせて優れた民族誌を読み、その実際について学ぶ。それらをつまみ、受講生の研究発表をおこなう。
選択科目	社会システム論文献講読Ⅰ	2	准教授 本多 康生	大規模災害が頻発する現代社会において、災害リスクを管理し、強靱なコミュニティを構築する方途を検討するため、災害社会学の海外文献を購読し、災害研究の歴史的背景・方法論の考察を進める。
	社会システム論文献講読Ⅱ	2	教授 ○平田 暢	社会学文献講読。合理的選択理論を用いた数理社会学の研究や、産業化や地域移動の効果、コミュニティ形成等の地域社会学的研究を中心に扱う。
	文化構造論文献講読Ⅰ	2	教授 博士(文学) ○中村 亮	本授業では、文化人類学の基礎文献・民族誌・論文、および、受講生の研究テーマに関係する文献をテキストとして使用し、文化人類学的な調査方法・考察・学説史などについて学ぶ。同時に、論文の論理的構造を理解することで、自身の論文執筆に活かしてゆく。
	文化構造論文献講読Ⅱ	2	教授 博士(文学) ○岸根 敏幸	日本神話の中でも特に古事記神話を扱います。具体的には『古事記』『上つ巻』を精読して、古事記神話に含まれる様々な問題点について検討していきます。
	思想文化論文献講読Ⅰ	2		【担当者未定科目】
	思想文化論文献講読Ⅱ	2		
	表象文化論文献講読Ⅰ	2	教授 博士(文学) ○植野 健造	美学、美術史学、芸術学、博物館学など。これらの領域を視野にいれながら、より広くヴィジュアルイメージ(視覚的表象)全般に関わる人間活動の歴史と意義について考察を行う。そのための基礎能力を身につけるために、有益と思われる文献を講読する。
	表象文化論文献講読Ⅱ	2	教授 浦上 雅司	西洋美術史研究で特筆すべき業績を上げた研究者 (Panofsky Gombrich Baxandall Kempなど) の興味深い論文や著書を取り上げ講読する。この作業によって、美術作品の見方について学ぶと共に、美術史の方法についても知見を深める。
	表象文化論文献講読Ⅲ	2	准教授 博士(Ph.D.) ○落合 桃子	表象文化に関する欧語文献を講読します。美術史・芸術学に関する研究には高度な語学力が求められます。専門的知識を身につけながら、研究に必要な文献読解力と語学力を習得することを目指します。
	現代社会論	2	准教授 本多 康生	ビーター・コンラッドらが編纂した『The sociology of health and illness: critical perspectives』をテキストとして、医療社会学の基本的知識を整理し、現代社会の健康や病をめぐる諸問題を考察する。
	比較社会文化論	2	教授 ○高岡 弘幸	文化人類学および隣接諸分野における社会・文化の比較研究の具体例を参照しつつ、そこで用いられる諸理論や分析方法について考察・議論する。
	文化心理学	2	教授 大上 渉	認知心理学及び犯罪心理学が専門。認知心理学では、日常的な文脈における記憶や知覚・注意の変化を扱い、犯罪心理学では大量の事件データを計量的に分析して読み取れる犯罪行動と犯罪者の個人属性などを研究している。どちらも実証的な研究アプローチに基づいており、実験や調査により得られたデータ(エビデンス)に基づいて検証がなされる。大学院の講義では、心理学の専門誌に掲載された論文を集中的に読解し、心理学における仮説の組立て方、仮説を実証するための実験・調査デザインの方法、データを分析する統計学的分析、考察のポイントなどを身につけることを目標としている。
	人間性心理学	2		
	応用倫理学	2	准教授 博士(文学) 林 晋雄	18世紀スコットランドの哲学者デイヴィッド・ヒュームの思想を中心に、近現代の哲学・倫理学の思想を研究している。特に最近では、ヒュームの思想を基盤としつつも、一方で、R. ハーストハウス・M. スロート・Ch. スワントンの現代徳倫理学理論について比較研究をするとともに、他方で、応用倫理学の諸問題について、徳倫理学的な観点から考察をしている。
文化価値論	2			
言語文化論	2	准教授 博士(文学) 小笠原史樹	西欧の言語文化に関する専門的な研究として、アウグスティヌス『告白』を研究対象とし、邦訳を用いて全体的内容を確認しながら、特に重要な箇所をラテン語原典で読み、検討する。	

2. 履修方法

- ① 学生の標準修業年限は2年とし、所定の授業科目について、合計32単位以上を修得しなければならない。
- ② 「人間社会」及び「人間文化」の2分野のうち、いずれかの分野に属する一つの演習及び特講を選定し、これをその学生の専修科目とする。
- ③ 専修科目の演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を受けなければならない。
- ④ 必修科目8単位、専修科目の演習8単位及び特講4単位、選択科目12単位以上を履修しなければならない。
- ⑤ 他専攻の開講科目については、指導教員の許可を得た上で、4単位を限度として履修することができる。
- ⑥ 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。